

「ぶらり車いす散歩の会」の取り組み ～ 障害当事者と作業療法士との協働アプローチ ～

【取り組みの目的】

2015年12月に立ち上げた障害当事者と作業療法士の協働アプローチです。病気や事故に起因する中途障害者は、その状況の変化に対応できず引き籠もりがちになる。そんな人たちの外出の機会を作り、障害を持つ他の人たちと触れ合い意見交換することで、生活上あるいは楽しみの情報を共有して生活の質の向上と主体性の獲得を目指す。また、参加に際しては、療法士がいることで安心感をもって参加してもらえる。

一方、作業療法士にとっては、障害者の病院や施設外での生活者としての日々の暮らし方を知ることにより、日頃の臨床でのリハビリテーションにフィードバックして知識や技術の向上に結び付けることができる。

【活動内容】

毎月第4日曜日に交流会を開催し、お茶を飲みながらの情報交換。各自が持つ生活の知恵や工夫を情報として出し合い、他の会員はそれらの情報が自分に応用できるかを考え、応用できそうな場合は自分に合った具体的な工夫を全員に討議してもらう。

また、外出や旅行をした会員にはその時の楽しかったこと、及び移動や宿泊施設で不便を感じたこと、苦勞したことなどの体験談を話していただき、生の情報として共有する。加えて、花見やBBQ、オーケストラ鑑賞など随時開催し、非日常的な楽しみの機会も共有する。こうした行動経験の積み重ねを通じて社会性や主体性を培う力を持てるように互助しようというのが、「ぶらり車いす散歩の会」の取り組みである。

交流会やイベントの様子



交流会の様子



お花見会

【効果】

参加に際して不安や躊躇があった会員が、回を重ねるごとに気負いがなくなり、発言が多くなっていった。また主体的な外出行動も出来るようになった。こうした外出する機会をつくることで、主体性を育むキッカケとなる。

また、他のNPOや自主グループとの交流の機会もできて、障害者が生活する上で共通する課題を共有するような連携もできるようになってきた。

【課題】

発足して1年弱ということもあるが会員数が少ない。対象が引き籠もりがちな障害者ということもあって接点がなく広報が難しいが、会員数を増やすための広報のあり方や手段を考える必要がある。また、交流会の話題の設定や参加しやすい雰囲気作りにももう少し工夫が必要と感じている。加えて団体登録した八王子市民活動支援センターの活用も課題。

「ぶらり車いす散歩の会」の取り組み

～ 障害当事者と作業療法士の協働アプローチ ～

C4.5不全麻痺者 山添 清 永生クリニックOT 平野 彩 スマイル永生OT 林 こずえ

取り組みの目的

障害当事者

病気や事故に起因する中途障害者は、その状況の変化に対応できず引き籠もりがちになる。そんな人たちの外出の機会を作り、障害を持つ他の人たちと触れ合い意見交換することで、生活上あるいは楽しみの情報を共有して生活の質の向上と主体性の獲得を目指す。

- | | | |
|-----------|---|----------|
| ① 外出機会の創出 | ⇔ | 引き籠もりの解消 |
| ② 交流 | ⇔ | 社会性の獲得 |
| ③ 生活情報交換 | ⇔ | 生活の知恵や工夫 |
| ④ 外出情報交換 | ⇔ | 主体的行動の獲得 |

作業療法士

作業療法士にとっては、障害者との病院や施設外の接点の場となり、生活者としての日々の暮らしや生活の知恵、工夫を知ることにより、臨床のリハビリテーションにフィードバックして知識や技術の向上に結び付けることができる。

- ① 病院や施設外での交流の場
- ② 障害者各自の生活の知恵や工夫を知る
- ③ イベントでは日常生活行為・動作を垣間見ることができる
- ④ その知恵や工夫を臨床にフィードバックできる

活動内容

月例交流会



- 毎月第4日曜日に交流会を開催
- 各自が持つ生活の知恵や工夫を情報として出し合う。
- 他の会員はそれらの情報が自分に応用できるか考える。
- 応用できそうな場合は、自分に使い勝手が良い方法を討議してもらう。

※生活の質の向上を目指す



- 外出や旅行をした際は、移動や宿泊施設でよかったことや不便だったことを情報として発信してもらう。

※主体的行動の獲得を目指す

イベント



お花見やBBQ、オーケストラ鑑賞会を随時開催

- バス、電車を利用した移動経験の蓄積。
- 非日常的な楽しみの共有。
- 社会性の獲得。
- 互助意識の芽生え。

実施イベント

- 2016年4月3日 お花見会 片倉城址公園
- 2016年10月30日 BBQ会 片倉つどいの森公園

【参加者】セラピスト・ケアマネージャー 訪問看護師

効果

障害当事者

- 参加に際しての他の障害者と交流することの不安や躊躇が解消された。
- 回を重ねごとに気負いがなくなり発言も多くなった。
- 交流会出席のため交通機関の利用にも慣れ、地域での生活行動半径が広がった。

他団体との交流

他団体との交流の機会もでき、障害者が生活する上で共通する課題を共有するような連携もできるようになった。

課題

- 生活圏での楽しみを創出し、QOL向上にどう絡めるか。
- 障害当事者とセラピスト、ケアマネージャー、訪問看護師との連携の構築。
- 交流会の話題の設定や雰囲気作り。
- 会員を増やすための広報のあり方。